

第 698 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

日 時： 2024年6月8日（土）午後2時00分

開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

* 2024 年度より会場開催のみとなります。

* 講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
1,000 円	専門医共通講習（感染対策）1 単位（ii 貼付用） 学術集会参加単位（iv-B 貼付用）	* 単位を取得するためには教育講演 全ての聴講が必要（60 分）



【会場アクセス】

■ JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※日比谷線八丁堀駅（A5 出口）

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：水野 克己（昭和大学医学部小児科主任教授）

主幹校：昭和大学医学部小児科 担当：阿部祥英

連絡先：jpestokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP： <https://jpeds-tokyo.com/>



第 698 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

〈プログラム係 日本大学 岡橋 彩〉

一般演題 (1) 14:00 - 14:40 座長 青木 政子 (日本大学医学部附属板橋病院小児科新生児科)

1) 心室期外収縮を契機に発見された冠動脈瘤の 1 例

○須磨 葉月¹⁾、長原 慧¹⁾、古川 晋¹⁾、永松 優一¹⁾、武井 陽²⁾、山口 洋平¹⁾、石井 卓¹⁾

(¹⁾ 東京医科歯科大学小児科、²⁾ 都立墨東病院小児科)

12 歳男児。学校心臓健診で心室期外収縮を認め、2 次検診のマスター負荷心電図検査で非持続性心室頻拍を認めた。前医の心臓超音波検査で最大径 11 mm 程度の巨大冠動脈瘤を認め、当院に紹介された。造影検査では冠動脈の閉塞や再疎通の所見があり、MRI で誘発虚血も認めたため、冠動脈バイパス術を施行した。運動時に心室期外収縮が増加するような症例では詳細な画像検査を含めた精査が肝要である。

2) 頭痛軽快後に高血圧を認め、褐色細胞腫の診断に至った 1 例

○高橋 諒、赤松 信子、山本 萌、鈴木 崇、松本 和華子、大野 幸子、山崎 崇志、柏木 保代、
山中 岳

(東京医科大学病院小児科・思春期科)

13 歳男子。7 歳時から片頭痛を疑われて鎮痛剤を頓服していた。今回急激かつ進行性の頭痛にて入院した。頭痛軽快後から持続性の高血圧を認めた。腹部超音波検査にて左副腎腫瘍を認め、血液・尿検査より褐色細胞腫を疑い、病理組織で診断に至った。小児の褐色細胞腫はまれだが、悪性の割合が高く速やかな診断が重要である。褐色細胞腫では頭痛が発作性の場合もあり、頭痛を診る際は継続的な血圧測定が重要である。

3) 成人フェニルケトン尿症患者の新規治療薬ペグバリアーゼ導入半年間の検討

○林 美生、高野 智圭、小川 えりか、大海 なつき、川島 仁美、岩間 元子、石毛 美夏、
森岡 一朗

(日本大学小児科)

当院でペグバリアーゼ治療中の成人フェニルケトン尿症患者 8 例の治療導入から半年間の経過を検討した。男女比 3:5、年齢と導入前血中フェニアラニン (Phe) の中央値はそれぞれ 36 歳 (29 ~ 51)、1,368 $\mu\text{mol/L}$ (414 ~ 1,485) であった。6 例が維持用量の 20 mg/日まで漸増でき、うち 3 例は Phe 360 $\mu\text{mol/L}$ 以下に達し、食事療法を一部緩和できた。残り 3 例は前値から 20 ~ 36%低下した。

4) 偏食と牛乳の多飲により重度の鉄欠乏性貧血をきたした幼児の一例

○高松 紗良、齋藤 彩、高見 遙、伊藤 研、角皆 季樹、池本 智、神尾 卓哉、秋山 政晴、
大石 公彦

(東京慈恵会医科大学 小児科学講座)

2 歳男児。健診で顔色不良を指摘され、血液検査で Hb 4.8 g/dL と重度貧血を認めた。精査でさらに血清鉄低値、低蛋白血症および便潜血の所見があった。病歴聴取から発達遅滞の指摘はないが偏食があり、水分として牛乳のみを 1 日 1L 以上摂取していたことが判明した。牛乳貧血と診断し、鉄剤内服と栄養士による食事指導を行った。鉄摂取不足と多量の牛乳摂取により高度貧血をきたしうることの保護者への啓蒙が必要である。

5) 再発性腸重積として加療を受けていた solid FPIES の乳児例

○濱原 彩加、永田 万純、稲毛 英介、新井 喜康、田中 裕子、神保 圭佑、安倍 信平、
鈴木 光幸、東海林 宏道

(順天堂大学小児科)

11 か月乳児。9、10 か月時に胃腸炎症状と活気不良を主訴に受診し、腸重積症として加療された。腹部症状の反復と食物摂取歴から大豆による solid food protein-induced enterocolitis syndrome (solid FPIES) が疑われ、経口大豆負荷試験で活気不良、嘔吐が誘発された。solid FPIES は腸重積症と症状が類似し、診断には食物摂取歴を含む丁寧な問診が必要である。

6) 皮下結節を契機に診断したリウマチ熱の3歳児の1例

○志田 雅貴^{1,2)}、中尾 寛^{1,2)}、窪田 満²⁾、石黒 精¹⁾

(¹⁾ 国立成育医療研究センター教育研修センター、²⁾ 同 総合診療部)

3歳女児。A群β溶連菌血症に対し、前医で抗菌薬治療がされていたが、多発関節炎(右膝関節、右3指DIP、左5指PIP)・左閉鎖筋周囲の炎症が認められ、第8病日に当院へ転院した。造影MRIで左坐骨骨髓炎を認めたが、多発関節炎の説明が困難であった。第14病日から右手背と右足背に皮下結節が出現し、リウマチ熱の診断基準を満たした。非典型的な臨床検査所見も含め、診断に苦慮した本症例について考察する。

7) *Streptococcus pyogenes* による慢性骨髓炎の1例

○酒井 英知、吉川 遥菜、古市 宗弘、新庄 正宜、鳴海 覚志

(慶應義塾大学病院小児科)

1歳女児。診断1か月前から繰り返す発熱、左脚をかばう動作を認めていた。前医の下肢X線検査で大腿骨遠位部骨幹端の骨腫瘍を疑い、当院にて生検を行った。検体から *Streptococcus pyogenes* が検出され、慢性骨髓炎と診断し、加療した。慢性骨髓炎は外科的搔爬や長期の抗菌薬治療が必要な疾患である。可動域制限や跛行、変形といった後遺症を残さないためにも病初期に発見し、慢性化を防ぐことが重要である。

8) HLA-B39 陽性の脊椎関節炎の1例

○石橋 佑脩、吉橋 知邦、大森 多恵

(都立墨東病院小児科)

13歳男子。左殿部痛、歩行困難を主訴に当科を受診した。腰椎MRIで異常は認めず、骨髓炎を鑑別に抗菌薬治療を開始したが症状は改善しなかった。入院5日後の骨盤部MRIで左仙腸関節周囲のT2高信号、血液検査でHLA-B39陽性を認め、脊椎関節炎が疑われた。NSAIDs、サラゾスルファピリジンにより症状は改善した。脊椎関節炎はHLA-B27との関連が指摘されているがHLA-B39陽性例もあり、報告する。

○指定発言 森 雅亮 (東京医科歯科大学小児科)

感染症だより 15:35 - 15:50 (講演: 15分)

講師 北村 則子 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

共催セミナー 15:50 - 16:30 (講演: 40分)

「RS ウイルス感染症を予防・重症化抑制するための新たな選択肢 - 長期間作用型抗体製剤 (バイフォータス®)」

座長 中野 有也 (昭和大学江東豊洲病院小児内科)

講師 森岡 一朗 (日本大学医学部小児科)

共催: サノフィ株式会社

RS ウイルスは代表的な小児の呼吸器感染症である。この度、2024年3月には、「重症化リスクを有する新生児、乳児及び幼児におけるRSウイルス感染による下気道疾患の発症抑制」、「すべての新生児及び乳児におけるRSウイルス感染による下気道疾患の予防」を適応症として、長期間作用型モノクローナル抗体製剤であるニルセビマブ (バイフォータス®) が製造販売承認を取得した。バイフォータス® の効能・効果の考え方や使い方、臨床試験成績等について講演する。

* * 休 憩 16:30 - 16:40 * *

教育講演 16:40 - 17:45 (講演: 60分 + 質疑応答: 5分) 専門医共通講習 (感染対策) 1単位

「超高齢化社会に求められる感染症対策」

座長 森岡 一朗 (日本大学医学部小児科)

講師 時松 一成 (昭和大学医学部内科学講座 臨床感染症学部門 (感染症内科))

日本は人口の約3割が65歳以上、世界でトップの超高齢化国になりました。高齢者にも社会生産性が求められる中、健康を維持することが重要になっています。高齢者の疾病負荷に大きな影響を与えているのは感染症です。コロナ禍後の今、どのような感染症や薬剤耐性菌が問題になっているのか、高齢者に求められているワクチンは何か、高齢者と小児の感染症とのかかわりも含め、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

演題募集中!

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】 <https://jpeds-tokyo.com/>



◆ 2024 年度講話会及び年間行事予定 ◆

■ 講話会予定

講話会	日程	会場	備考
第 698 回	2024 年 6 月 8 日 (土)	アットビジネスセンター八重洲通 (会場開催のみ)	第 1 回幹事会*新幹事
第 699 回	2024 年 7 月 20 日 (土)		2024 年度総会
第 700 回	2024 年 9 月 14 日 (土)		
第 701 回	2024 年 10 月 12 日 (土)		
第 702 回	2024 年 12 月 14 日 (土)		
第 703 回	2025 年 1 月 11 日 (土)		
第 704 回	2025 年 2 月 8 日 (土)		第 2 回幹事会
第 705 回	2025 年 3 月 8 日 (土)		

* 4, 5, 8, 11 月は休会

■ 小児診療初期対応 (JPLS) 開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応 (Japan Pediatric Life Support : JPLS) を年間 4 回開催します。

取得単位：小児科専門医 (新制度) 更新単位 iii 小児科領域講習 3 単位

開催日程	会場	申込開始時期
2024 年 12 月 7 日 (土)	日本大学	2024 年 8 月上旬開始予定
2024 年 12 月 8 日 (日)	日本大学	2024 年 8 月上旬開始予定
2025 年 2 月 1 日 (土)	国立成育医療研究センター	2024 年 10 月上旬開始予定
2025 年 2 月 2 日 (日)	国立成育医療研究センター	2024 年 10 月上旬開始予定

申し込み先：日本小児科学会 HP

https://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=221

■ 第 49 回東日本小児科学会のご案内

会 長：浜松医科大学 宮入烈先生

日 程：令和 6 年 11 月 23 日 (土・祝) 予定

会 場：えんてつホール (オンデマンド配信あり)

U R L：<https://eastjp49.jp/>

【主幹校 (会長校)】昭和大学医学部小児科

【運営事務局】日本大学医学部小児科

【主幹校/運営事務局 共通アドレス】

✉ jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中は会場 03-6627-2151 へご連絡ください。

【東京都地方会 HP】

<https://jpeds-tokyo.com/>



◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【2024 年会費納入について】

2024 年度より年会費が 8,000 円となります。

年会費納入のお知らせを 2024 年 4 月 1 日にメールおよびホームページにてご案内しております。

3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

* 会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きをお願いいたします。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。

学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と 年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認をお願いいたします。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。